

中津港

大分県土木建築部港湾課

〒870-8501 大分市大手町3-1-1

☎097-536-1111(代)

URL : <http://www.pref.oita.jp/17300/index.html>



1. 概況

〈沿革〉

中津港は、大分県の西北端に位置し、天然産物、工芸品等の産出が豊富な中津市、下毛郡及び宇佐市、宇佐郡を背後地域として、阪神・中国及び関門地区との交通の要衝として旧藩時代より繁栄していたが、その後維持等に相当の困難を生じ放置されてきた。しかし、戦後の急激な経済発展により工場の進出が相次ぎ、港湾整備の要請が強くなり、既存の工場群及び新たな企業の進出による原材料・製品の入出荷、背後よりの農産品の移出及び建設資材等による物質量の増大に対処するため、昭和34年6月の地方港湾指定以降、近代的な港湾整備に着手し、平成7年までに田尻地区において水深3.5m物揚場120m、水深5.5m岸壁3バース、水深7.5m岸壁2バースが完成した。

その後、中津港周辺において自動車関連産業等の新規立地が計画され、新たな外貨貨物の取り扱いとともに、背後の道路体系の整備進展により、国際・国内海上輸送ネットワークの拠点として発展することが期待されたため、平成11年6月には全国で13年ぶりの重要港湾昇格を果たした。

平成11年11月には港湾計画を改訂し、輸送機械、その他機械、林産品等の外内貨物及び内貿ユニットロード貨物を取り扱う公共埠頭計画を策定。この計画に基づき、水深11m岸壁等の多目的国際ターミナルの整備を国直轄事業で実施し、平成16年9月には、水深11m岸壁1バース、水深8m岸壁1バースが供用を開始した。これらの公共埠頭の整備と同年12月に操業を開始した自動車関連産業等による新規貨物の取扱により、中津港の貨物量は急増し、平成19年には約440万トンとなり、平成15年の約50万トンと比較して9倍もの伸びを記録した。また、平成19年には国際船舶・港湾保安法に基づく SOLAS 対応設備が整い、平成21年には関税法に基づく開港に指定されるなど、外貿物流機能も着実に強化されてきた。

また、中津港の背後地には物流企業の進出が続くとともに、平成26年からは日田等の県北地域で伐採された原木が中津港から輸出、移出されるという取り組みも始まり、中津港を核とした広域の物流体系が構築されようとしている。

このような中、中津港の背後圏では東九州自動車道や地域高規格道路中津日田道路などの広域交通ネットワークの整備が急速に進み、平成27年3月には中津日田道路を経て東九州

自動車道に直結する臨港道路中津港線が完成、平成28年4月には東九州自動車道の北九州市～宮崎市が直結し、中津港は大分県北地域の流通の拠点として、さらに重要な機能を果たすことが期待されている。